



Kobe University Repository : Kernel

タイトル Title	獨逸ニ於ケル土地制度ノ發達ノ梗概(1)(1)
著者 Author(s)	美濃部, 達吉
掲載誌・巻号・ページ Citation	經濟學商業學國民經濟雜誌,2(1):15-31
刊行日 Issue date	1907-01
資源タイプ Resource Type	Departmental Bulletin Paper / 紀要論文
版区分 Resource Version	publisher
権利 Rights	
DOI	
URL	http://www.lib.kobe-u.ac.jp/handle_kernel/00051097

Create Date: 2017-12-16



獨逸ニ於ケル土地制度ノ發達ノ梗概 (其一)

東京帝國大學法科大學教授

法學博士 美濃部達吉

本誌ニ一文ヲ投寄スルコトヲ依囑サレタガ、自分ハ經濟學ニ關スル智識ハ殆ント之ヲ缺イテ居ルノデ本誌ニ掲載スルニ適當ナ題目ヲ得ルニ甚ダ苦ルシムダガ、已ムヲ得ズ舊稿ヲ補足シテ此ノ一文ヲ投寄シ、以テ其ノ責ヲ塞クコト、シタ、敢テ専門家ニ示サントスルノデハナイ唯一般讀者ノ爲メニ多少ノ參考トナル事ガ出來レバ幸デアアル

第一節 ゲルマン時代

土地所有權ノ制度ニ就イテハ何レノ國デモ歷史上三ツノ時代ヲ經過スルノガ例デアアル。即チ第一ニハ共同所有共同使用ノ時代デ、第二ニハ共同所有各自使用ノ時代、第三ニハ各自所有各自使用ノ時代デアアル。第三ノ時代即チ各個人ガ土地ノ私有權ヲ有スルニ至ツタノハ土地經濟ノ頗ル發達シタ後ノ事デ、日本又ハ佛國ノ如キ革命的ノ變化ニ依ツテ舊時代ノ制度ヲ全ク破壊シタ國デハ今日ハ既ニ殆ンド完全ニ此ノ時代ニ達シタモノトイフ事ガ出來ルケレドモ、舊時代ノ制度ガ漸次ニ

發達シ來ツタ國デハ必ズシモ然ウデハナイノデ、殊ニ英國ノ如キハ今日デモ法律上ハ一私人ガ完全ナル土地ノ所有權ヲ持テ居ルノデナク、理論上ハ尙ホ全國ノ土地ガ王有地ト看做サレテ居ルノデアアル。獨逸デハ勿論英國ホドニハ著ルシクハナイケレドモ、尙所々ニ共同所有時代ノ明ナ痕跡ヲ殘シテ居ルノデアアル。

サレバ「ゲルマン」民族ガ始メテ歴史ニ見ハレタ最初ノ時代ニハ、土地ノ所有權モナケレバ又各個人ノ使用權モ無カツタノデアアル「ゲルマン」民族ノ最古ノ有様ハ歷史上ノ材料甚ダ乏シイガ、其中ニ極メテ正確ナル史料トシテ今日ニ傳ハツテ居ルモノガ「ニツアル」一ツハ Caesarノ de Bello Gallico デ一ツハ Tacitusノ Germania デアル「シーザー」ノハ紀元前五八年頃ノ著「ダシタス」ノハソレカラ百五十年程經ツテカラノ著デアアル。此ノ二ツノ書物ニハ土地ニ付イテノ有様モ多少記ルシテアルガ、其ノ間ニハ著ルシイ差違ガアルノデ、其ノ差違ハ即チ百五十年間ノ發達ヲ示シテ居ルモノト信セラレテ居ルノデアアル。

「シーザー」ノ時代ニハマダ土地ノ私有權モナケレバ、又各個人ノ使用權モ無カツタノデ、即チ純然タル、共同所有、共同使用ノ有様ニ在ツタ。此ノ時代デモ「ゲルマン」民

族ハ最早純然タル遊牧ノ民デハナク既ニ住所ヲ有シ又不完全ナカラモ耕作ヲモヤツテ居ツタケレドモ、其ノ住所ト言ツテモ定着ノ住所デハナク容易ニ移ルコトノ出來ルモノデ、又耕作ト言ツテモホンノ表面ダケノモノデアツタノデアアル。ソレデアルカラ土地ヲ耕作スルト言ツテモ、毎年同ジ土地ヲ耕ヘスノデハナク一年耕ヘシテ翌年ハ又異ツタ土地ニ移ルノデアアル。一體此ノ時代ノ日耳曼^{ゲルマニヤ}民族ハ決シテ一大國民トシテノ政治上ノ統一ヲ有ツテ居タモノデナク數多ノ小部落ニ分カレテ此ノ小部落ガ各政治上ノ單位ヲナシテ居タノデ、歷史上此ノ部落ヲ *Völkerschaft* (*civitas*) ト言ツテ居ル各部落ハ更ニ *Gau* (*pagus*) トイフ地方區劃ニ分カレテ居タノデ、此ノ *Gau* ガ其ノ區域内ノ土地ヲ共有シテ居ルモノト看做サレテ居タノデアアル。ソレデ其ノ *Gau* ノ長ガ毎年其土地ヲ其區域内ノ各 *Sippenschaft* ニ分割スル。 *Sippenschaft* トイフノハ血縁ニ因ル親族團體デ、此ノ親族團體ガ分配セラレタ土地ヲ共同ニ使用スルノデアアル。

「タシタス」ノ頃ニナルト此ノ有様ハ大分變ツテ、人民ハ一ヶ所ニ定住スルコト、ナツテ、從テ土地所有權トイフ思想モ大分發達シテ來タ。ケレトモ之ハ土地ノ種類

ニ依ツテ違フ。

第一ニ宅地。庭園。即チ住所ノ周圍ノ地ニ付テハ最早私有權ガ行ナハレテ居タ。即チ此ノ時代ニハ最早年々住所ヲ變ヘルトイフコトガ無クナツタノデ一ヶ所ニ定住スルコト、成ツタ。其ノ居住ノ有様ハ村落ノ形ヲ爲シテ居ルノガ通例デアルガ(Dorfschaftssystem) 或ハ山間ノ土地デアルトカ、或ハ村落カラ分離シテ移住シタトカ言ツタ様ナ場合ニハ一戸獨立ノ場合モアル(Einzelhofsystem)

第二ニ耕作地。ノ所有權ニ就テハ村落制ノ場處ト一戸制ノ場處トニ依ツテ違フ。村落制ノ場處デハ耕作地ハ村落ノ共有デ、一村時トシテハ數村落ガ土地共有。團體トモイフベキモノヲ爲シテ居ルノデアアル。獨逸語デ之ヲ Markgenossenschaft トイヒ、其ノ共有地ノ全體ヲ Markt といフ Markgenossenschaft ガ其ノ共有地ノ中カラ何年カヲ隔テ、定期ニ其ノ村落ノ中ノ各戸ニ分配スルノデ、即チ所有權ハ村落ノ共有デアアルガ使用權ハ各戸ニ屬スルノデアアル。土地ノ廣サニハ少シモ缺乏シナイカラ同シ土地ヲ力ヲ用キテ町疇ニ耕作スルトイフ様ナ事ハナク、土地ノ生産力ガ減シタ後ハ、其レハ牧畜場トシテ其儘ニ棄テ、置イテ、更ニ共有地ノ他ノ部分ヲ分配スル

ノデアアル。斯カル制度ヲ Feldgemeinschaft mit wechselnden Reihenordnung 即チ定期分配耕地
共。同。制。トイフ。或ハ稱シテ又 Marksystem トモイフ

耕地分配ノ方法ハ略次ノ如クデアツタトイフ事デアアル。ソレハ先ヅコレカラ耕
作シヤウトスル土地ヲ其ノ位置ト地質トニ依ツテ稍大キナ區劃ニ分割スル。即チ
上田、中田、下田トイフ様ナ區別ヲシテ其區別ニ應シテ土地ヲ分割スルノデ、其ノ各
區劃ヲ Gewanne トイフ。各 Gewanne ハ更ニ之ヲ分配スベキ團體員ノ員數ニ等シキダ
ケニ分割スル之ヲ Lose トイフ。即チ各團體員ハ上田、中田、下田ノ凡テノ Gewanne ノ中
カラ一ツ宛ノ Los ノ分配ヲ受クルノデアアル。

一戸制ノ場所デハ之ニ反シテ耕作地ニ就イテモ初メカラ當然ニ所有權ガ發達
シテ居タ

第三ニ宅地耕地ノ外ハ純然タル共。同。使用。地。デ後ノ言葉デ之ヲ Almende トイフ。コ
レハ土地ノ大部分ヲ占メテ居ルモノデ、山林、牧場、原野、沼池、河川等一切ヲ含ンデ居
ルノデアアル。宅地ノ如ク私有ニ屬シテ居ナイノハ勿論、耕地ノ如ク各戸ノ特別使用
權ニモ屬シテ居ナイ純然タル共有且ツ共用ノ土地デ、 Markgenossenschaft ノ各員ハ其

ノ上ニ無制限ノ使用權ヲ有ツテ居ル。卽チ其ノ上デ牧畜ヲ爲シ野獸ヲ狩リ、薪ヲ伐リ、漁獵ヲ爲シ、殊ニ開墾ヲ爲スノ權利ヲ有ツテ居タノデアツタ。

第二節 フランク時代

「フランク」時代トイフノハ種族大移轉ノ後、五世紀ノ中頃ニ「ゲルマン」民族ノ中ノ「フランク」族 (Salische Franken) ノ王 Chlodowech ガ舊羅馬ノ領域ニ在ル凡テ「ゲルマン」民族ヲ統一シテ一大王國ヲ建テ、カラ後、九世紀ノ中頃ニ「フランク」王國ガ分裂シテ東「フランク」即チ獨逸ト西「フランク」即チ佛蘭西トガ永久ニ分離スルニ至ルマデノ時代ヲ云フノデアアル。「フランク」王國ハ王統ガ前後二ツニ分カレテ初メノ王統ハクロードウエツクカラ七世紀ノ終マデ續イタノデ之ヲ Merovinger 王朝トイヒメロヴインガーガ滅ビテカラ之ニ代テ國王トナツタノヲ Karolinger 王朝トイフ。「フランク」時代ニナルト日耳曼時代カラ比ベテ日耳曼民族ノ經濟上ノ狀態ニ非常ナ大變化ヲ來タシク、其レハ日耳曼民族ガ羅馬ノ文化ト接觸シタコト、基督教ニ改宗シタコト、王權ノ擴張シタコト、農業ノ方法ノ發達シタコトナド皆其ノ變動ヲ來シタ原因デアツタ。

大種族移轉後、フランクン族ガゴールヲ占領シテカラ後ハ耕地ニ就イテモ各自ハ所有權ガ行ハルハニ至ツタ。前ノ時代ニハ野原ト耕地トノ判然タル區別ナク、廣イ田野ノ中ノ一部分ダケヲ耕地トシテ使用シテ、其土地ノ生産力ガ無クナレバ又元ノ野原トシテ捨テ、置キ今度ハ別ノ田野ヲ分配シテ耕ヘストイフ有様デアツタノガ此時代ニ成ルト耕地タル部分ト耕地タル能ハサル野原ト判然タル區別ガ出來テ、一度分配サレタ耕地ハ其儘永ク其家ノ占有ニ屬シテ永ク同シ土地ヲ耕ヘストイフ風ニナツテ其ノ占有ノ永クナルニ隨テ自然所有權ノ思想ヲ發達シタノデアラウ

カウイフ譯デ前ノ時代ニハ一村共同シテ其共有ノ耕地ヲ定期ニ分配シテ居タノガ其定期ノ分配ハ無クナツテ最後ニ分配セラレタノガ其儘永續シテ分配ヲ受ケタ者ノ占有ニ歸スルコト、ナツタ。ケレトモ其耕作ノ方法、植付クベキ物ノ種類、植付及收穫ノ時期ナドハ共同體デ之ヲ定メテ全體員ハ其定ニ服從スルコトヲ要シタノデ、即チ所謂強制耕作 (Flurzwang) ニ依ツテ全村共同體ガ其耕作ヲ同シウシテ居タノデアアル、此カル有様ヲ稱シテ前ノ定期分配耕地共同制ニ對シテ永

續占有耕地共同制 (Feldgemeinschaft mit festen Hufenordnung) トイフ。

ソレデ土地耕作ノ方法モ段々發達シテ少クトモ八世紀カラハ主トシテ經濟學者ノ所謂三分田ノ法 Dreifelderwirtschaft トイフノヲ行テ居タ。是ハ十九世紀ノ初迄モ引續イテ行ハレテ居タノデ、其ノ方法ハ一村共同體ニ屬シテ居ル耕地ノ全部ヲ成ルヘク等分ニ三部ニ分テ其中ノ二部ヲ耕シ一部ヲ休マセテ置クノデ、即チ三田交代ニ、第一年ニ冬田トスレバ次ノ年ニハ夏田トシ、又翌年ハ休田トスルトイフ様ニスルノデアアル。各田之ヲ數 Gewanne ニ分チ各 Gewanne ハ更ニ Lose ニ分チテ其村落中ノ各員ハ各 Gewanne ノ中ニ各一 Los ヲ所有シテ居ルノデアアル。

耕地ガ各人ノ所有ニ歸シテカラ共有地即チ Almende ハ主トシテ野原山林デ、其外河川湖水ナドモ其中ニ含マレテ居ル。

村落共同體ノ各員ガ土地ノ上ニ有スル權利ノ正常ノ割前即チ宅地ノ所有權、耕地ノ一戸ノ割前共用地ノ共用權ヲモ合セタモノヲ Mansus 又ハ Hufe (「一戸前」ト譯) トイフ。一戸前ハ Wergeld (即チ人ヲ殺シタ場合ノ贖罪金) ヲ初トシテ其他經濟上ノ價格計算ノ單位ヲ爲シテ

居タ。

カウイフ有様デ耕地ノ上ニ所有權ガ發達シテカラ後モ獨逸民族中ノ自由民ノ中ニハ略其土地所有ノ高ガ平均シテ居テ地主モナケレバ又土地ノナイモノモナカツタ。「フランク」建國ノ後モ暫クハ此ノ有様ニ在ツタガ間モナク之ニ大變化ガ起ツテ大地主ノ階級ヲ生スルニ至ツタ。

「フランク」族ガ羅馬ノ領域ヲ奪掠シタ結果トシテ大地主トナツタノハ最初ハ唯國王ノミデアツタ最モ「フランク」ノ王ハ是ヨリモ前初カラ大地主デアツタノデ「アングロ、サキソン」ノ法デハ國有地 (Volkland) ハ明ニ王有地ト區別セラレ國有地ニ付テハ國王ハ Witanノ集會ノ承諾ヲ得ナケレバ處分スルコトガ出來ナイ事ニナツテ居タノニ反シテ「フランク」ノ法デハ國有地即チ王有地デ從來カラ Markgenossenschaftノ共有又ハ各個人ノ占有ニ屬シテ居ルモノ、外原野山林ハ凡テ王有デ國王ハ自由ニ之ヲ處分スルコトガ出來タノデアツタ。然ルニ奪掠ノ結果羅馬ノ國有地ハ皆國王ノ所領トナリ、其外無主ノ土地又ハ沒收シタ土地ハ皆王有地トナツテ、國王ノ所領地ハ非常ニ増加シタ、

王領地ガ斯ク増加スルニ隨テ國王ハ之ヲ寺院及ヒ功臣ニ分チ與ヘタ、即チ國王

ニ次イデ大キナ領地ヲ有ツニ至ツタノハ第一ニ寺院デアツテクロードウエクガ基督教ニ改宗シテカラ後歷代ノ王ハ盛ニ基督教ノオ寺ニ土地ヲ喜捨シタ。私人カラモ冥福ヲ禱ル爲ニ土地ヲ喜捨スルモノガ甚ダ盛デ、殊ニKarl der Grosseノ時分ニハ最モ盛デアツタトイフコトデ大抵ノオ寺ハ忽ノ内ニ大地主ニナツテシマツタ。寺院ノ外ニ俗界ノ豪族ニモ國王カラ與ヘラレタ土地デ少ナカラス大地主ガ出來タ。

クレトモ此外ニモ亦土地所有ノ不平均ヲ來タスベキ種々ノ原因ガアツタ。

第一ニハ開墾權 Rodungsrecht, Recht des Neubruchs デ、元來村落共用地タル Alimende デハ其共同體デ若シ禁止シナケレバ其共同體ニ屬シテ居ルモノハ誰レデモ之ヲ開墾スルコトガ出來テ、其開墾地ハ開墾者ノ所有ト成ルノデアツタ。尙村落ノ共有ニ成ツテ居ナイ土地即チ王有地タル原野デハ内國人デアルナラハ誰レデモ Grafノ許可ヲ得タナラバ之ヲ開墾スルコトガ出來タノデ、其レハ所有地ニハ成ラナイケレドモ相續シ得ベキ任用權ヲ得ルノデアル。然ルニ開墾ヲスルニハ多クノ勞力ヲ要スルカラ唯富者ノミガ開墾スルコトガ出來テ富者ハ益多クノ地所ヲ所有ス

ルニ至ツタノデアル。

第二ニハ相續權デ、土地ノ所有權ガ發達シテ土地ノ上ニ完全ノ相續權ガ行ハル、ニ至ツタ爲メ、或ハ一Hufeガ分割シテ相續セラレ或ハ數Hufeガ合セテ相續セラ
ル、コト、爲リ、之ニ依ツテ又土地所有ヲ不平均ナラシムルノ原因ヲ爲シタ。獨逸
民族ノ風俗デハドノ種族デモ分割相續即チ子供ガ大勢アレハ諸子ガ皆同様ノ相
續權ヲ持テ居タノデアル。

其外罰金、贖罪金 *Busse, Wergeld* ノ制モ亦貧富ノ不平均ヲ來タス一原因デアツタ
ソレハ非常ニ高イ罰金又ハ贖罪金ヲ仕拂フヘク餘義ナクセラレタモノハ一朝ニ
シテ貧乏ニナツタノデアル。

此ノ如キ種々ノ原因ニ依ツテ一方ニハ大地主ヲ生スルト共ニ一方ニハ小地主
ハ比較的重キ負擔ニ堪フルコトガ出來ナクテ大地主ノ爲メニ其土地ヲ併合セラ
レ土地ノ兼併ハ益行ハレタ。

大地主ノ所領地ハ普通ノ農民カラ成リ立ツテ居ル村落共同體 (*Dorfgenossenschaft*)
カラハ離レテ別ニ獨立ニ *Hofverband* 即チ莊園トモイフヘキ團體ヲ爲シテ居ルノ

デ時トシテハ Markgenossenschaft カラモ獨立シテ居ルコトガアル此ノ莊園ノ中心
 ヲ爲シテ居ルノハ Herrnhof, Fronhof, 又ハ Salhof トイフノデ、即チ地主又ハ地主ノ代
 官ノ館デ之ニ附屬シテ自由民ノ小作人又ハ農作ノ爲ニ使ハレテ居ル奴隸半自由
 民ナドノ住所ガアツテ、此等ノ附屬民ハ皆 Herrnhof ニ年貢ヲ納メルコトニ成ツテ
 居ル。耕作ノ方法ハ皆 Herrnhof カラ之ヲ定メテ指揮スルノデ、以テ普通農民デハ村
 落共同體デ定メル Flurzwang ニ代ハルノデアアル。

斯ク大地主ガ出來テ土地所有ノ不平均ガ起ツタガ、此ノ不平均ヨリ生スル經濟
 上ノ困難ハ土地ノ貸附ガ盛ニ行ハル、ニ依ツテ救ハレタ大地主ハ奴隸ダノ小作
 人ダノヲ使ツテモ未ダ手が足りナイノト、其外種々ノ理由カラシテ、土地ヲ多ク自
 由民ニ貸シ附ケタ、此ノ貸附ヲ受クルニ依ツテ土地ノ無イモノデモ土地ヲ借り受
 ケ之ヨリ收穫ヲ得テ其幾分ヲ地主ニ納メルトイフ様ナ譯デ貧民ノ困難ガ救ハレ
 テ、其レガ爲ニ土地所有ノ不平均ノ甚シクナツタニモ拘ハラズ羅馬ノ末期ニ見ル
 様ナ貧富ノ軋轢、農民ノ不平トイフ様ナ事ガ起ラナカツタノデアアル。

土地ノ貸附ニハ二大種類ガ有ツタ。一ハ農民ノ借地デ、即チ所謂 Zinsgut デアル、通

常ノ地代ヲ取ツテ貸附ケタノデ、一ハ武士ノ借地デ即チ所謂 *Lehn* デアル假ニ封地ト譯スル。此ノ二ノ形式ガ之ヨリ數百年ノ間モ獨逸ノ土地制度ヲ支配シテ居タモノデアル。

農民ノ借地 *Zinsgut* ハ專ラ經濟上ノ爲メニスルモノデ、借地者ハ實物又ハ金錢デ *Herrnhof* ニ年貢ヲ納メ又地主ノ土地ノ耕作ノ爲ニ夫役ノ義務ニ服スルノデ、言ハ下級ノ借地關係デアル。借地者ハ自由民デアルケレドモ、經濟上地主ニ隸屬スル結果トシテ遂ニハ完全ノ自由ヲ失フニ至ルコトヲ免レナカツタ。

武士ノ借地即チ封地 *Lehn* ハ經濟上ノ爲メノ借地デハナク、公法上ノ目的ノ爲メニスルモノデ、借地人ハ主人ノ土地ノ爲ニ夫役ニ服スルノデハナク、主人其人ニ對シテ公法上ノ義務殊ニ軍役ニ服スル義務ヲ負フノデアル。其ノ結果トシテ借地人ハ其土地ノ耕作ニ其能力ノ全部ヲ費ヤスコトハ出來ナイノデ、土地ヲ捨テ、主人ノ爲メニ軍役ニ服スル的ノ餘力ヲ持テ居ナケレバナラヌ又武裝ヲスル的ノ資力ヲ持テ居ナケレバナラヌ。ソレダカラ封地トナスコトガ出來ルノハ比較的大キナ土地デ大抵ハ奴隸カ小作人ニ任カセテ置ク事ノ出來ル土地デナケバナラヌ借

地者ト主人トノ間ニハ經濟上ノ從屬關係ハナク從テ自由民タル資格ヲ害スルコトハナク即チ高等ナル借地關係デアアル。

此ノ第二ノ關係即チ封地關係ハ中世紀ヲ通シテ西歐羅巴ノ全部ニ行ハレテ居タ封建制度ノ基礎ヲ爲シテ居タモノデアアルカラ尙少シク其起源ヲ述フル必要ガアル。

封地制度ノ起源 封地制度ノ前驅トモイフベキモノハメロヴイంగాー王朝ノ

王有地ノ賜與ニ在ル。メロヴイంగాーノ王ガ急ニ王有地ガ増加シタニ由ツテ其ノ功臣ヲ賞スル爲メ又ハ寺院ニ喜捨スル爲メニ王有地ヲ分チ與ヘタコトハ前ニモ述ベタ通デアアル。然ルニ其ノ贈與ハ若シ完全ナル所有權ノ移轉デアアルコトヲ明言シナイ場合ニハ日耳曼固有ノ贈與ノ觀念ニ依リ所有權ノ制限的ノ移轉デ、贈與者ノ同意ガナケレバ受贈者ハ之ヲ他ニ讓リ渡スコトガ出來ズ、又男子ノ相續者ガナクテ死ンダトキニハ贈與者ニ復歸スベキ性質ノモノデアツタ。處ガ八世紀頃メロヴイంగాー朝ノ終 Karl Martell ガ宰相 Major Domus トシテ政ヲ執ツテ居タ時分ニ亞拉比亞軍ノ來寇ガアツテ之ニ當ル爲メ新ニ騎兵ヲ組織スル必要カラ大ニ土地ヲ

與ヘル必要ニ迫ツタ處ガ、王有地ガ最早足りナイノデ、餘義ナク寺領地ヲ收用シテ之ヲ分賜シタ。ケレドモ寺領地ハ寺院法ニ依ツテ其所有權ヲ讓リ渡スコトハ出來ナイ唯貸與スルコトガ出來ルノミニ成ツテ居ルノデ、寺領地ヲ分賜スルニハ從來ノ王有地ノ分賜ノ如クニ贈與トイフ名義デハナク貸地トイフ名義ニシタ。此貸地ノ形式ヲ *Beneficium* トイフ。是カラ後ハ王有地ヲ與ヘル場合ニモ矢張主トシテ *Beneficium* ノ形式ニ依ルノ例トナツタ。ベチフイシウムハ一時限リノ使用收益ノ權利ヲ設定スルモノデ、借地者ガ死セバ (*Mannfall*) 其ノ相續人デ相續スルノデハナク貸地者ニ復歸スル。其ノ貸地者ノ死シタ場合ニモ (*Herrnfall*) 亦其ノ關係ハ消滅スルノデアル。

Beneficium ノ起ルト同時ニ之ト關聯シテ又 *Vassalität* 家士ノ制ガ起ツタ。初メメロヴインガーノ時代ニハ國王ハ護衛ノ近習ニ *Antrustionen* トイフノヲ有ツテ居タ。是ハ騎武者デ、初ハ國王直隸ノ家士トシテ宮廷ノ内ニ王ト共ニ住ンデ居タノデ、ハアルガ其後ニハ *Antrustionen* ノ内デモ追々王宮ノ内ニ住ンデ居ナイデ王カラ土地ヲ貰テ其レヲ自分ノ領地トシテ其處ニ住ンデ居リ唯非常ノ事アルトキノミニ王ノ

爲ニ軍役ニ服スル任務ヲ有スルニ止マルモノヲ生シタメロヴインガーノ終ノ頃
ニハ Antrustionen トイヘハ大低ハ廣イ領地ヲ持タ大地主デ王宮ノ内ニ住ンデ居ル
Antrustionen ハ全ク消滅シテシマツタ。Antrustionen ヲ有テ居タノハ唯國王及ビ王后
ノミデアアルガ、其外ノ者モ亦家來從者ヲ持ツ事ガ出來ルシ、國王モ亦其外ニ騎武者
デナイ家來モ持テ居タ。此等ノ從者ハ此時ノ「フランク」ノ語デ Gasindi ト言ツテ居タ
ガ、後ニ八世紀ノ頃カラ Gasindi トイフ代リニ Vassi 又ハ Vassalli トイフ語ガ行ハレテ
居タ。Vassalli ハ初メハ唯私ノ用ニ使用サレテ居タノミデ、其ノ關係ハ純然タル私法
的關係デアツタガ Karl Martell 及ヒ其子ガ新ニ騎兵軍ヲ組織スルニ當リテ騎士タ
ルベキ人ヲ得ルカ爲ニ從來ノ Vassi ヲ利用シタ。其レ迄ハ騎士トイヘハ唯 Antrust-
tionen アルノミデアツタガ是レハ其數ガ少ナクテ到底軍備ノ目的ニ重キヲ爲スニ
足リナイノデ之ヨリモ遙ニ數ノ多イ Vassalli ヲ利用シテ騎士タルニ適當ナル人間
ニハ其ノ主人カラ騎士トシテ武裝セシメ得ル事ガ出來ル様ニ爲サシメタ。是ニ依
ツテ是迄ハ唯純然タル私ノ地位ヲ有シテ居タ Vassalli ガ其ノ騎士トナツタモノハ
公法的ノ性質ヲ得タノデ、其ノ結果ハ間モナク從來ノ Vassi, Vassalli トイフ名稱ハ唯

騎士タルモノニノミ適用セラレテ是迄通ノ私ノ從者ニハ最早此ノ名稱ヲ附シナイコト、ナツタ。同時ニ是迄ノ Anstruotionen ハ全ク消滅シテシマツタ。

主人カラ其家士 (Vassal) ニ對シテハ其生活ヲ維持シ且ツ其武裝ヲ調ヘサセル義務ガアルノデアアルケレドモ、家士ハ主君ノ家ニ住ンデ居ルノデハナイカラ、通常ハ其ノ資料トシテ家士ニ Beneficium トシテ土地ヲ與ヘル事ニナツテ居タ。Karl Martell 及ヒ其子ガ寺領地ヲ收用シテ分與シタノモ既ニ大部分ハ Vassal ニ與ヘタノデア。是カラ後追々ニ Vassal トナレバ必ず Beneficium ヲ與ヘ又 Beneficium ヲ與フレバ必ラス Vassal トナルノ慣習トナツテ、爰ニ Beneficium ノ制度ト Vassalität ノ制度トハ合同シテ一ノ制度トナツタ。其ノ合同シタモノガ即チ封地 Lehnssystem, Fendalität, Feudal System デアル。

(未完)